

令和５年度
全国連合退職校長会

第５２回関東甲信越地区退職校長会連絡協議会 千葉大会

期日 令和５年１０月２６日（木）・２７日（金）

会場 ホテルポートプラザちば

千葉県千葉市中央区千葉港８－５

第５２回 関東甲信越地区退職校長会連絡協議会「千葉大会」発表資料

１．研究協議題

「退職校長会の存在感を高める活動を広げるにはどうしたらよいか」

—「魅力ある会」の構築を目指して—

２．協議題設定の理由

各都県退職校長会は、加入率の低下を食い止めるべく、様々な取り組みを行っている。加入率を上げ、真に存在感のある組織にするために、「会の魅力」は必須である。会員の年代も様々であり、生活状況も変化していく中で、参加意欲を高める企画を作りだしていくことは容易ではない。加えて定年制の延長や再任用校長の導入などが入会時期をさらに複雑にし、加入者の減少につながる危惧もある。さらに様々な場所で指摘されているように、コロナ禍の影響で活動が制限されていることも活動の活性化の障壁となっている。

このような課題を抱えつつも、我々は会員の生きがいや喜びを生み出し、「魅力ある会」に向けて様々な活動を展開していきたいものである。そのためには二つの視点必要であるように思う。一つめは活動そのものの工夫であり、二つめは豊かな人間関係づくりである。活動が魅力的であることは大切であるが、加えて現役世代も含めた人間関係をいかにつくりだしていくかも非常に大切である。「あの人が役員をやっているなら入ろう」、「あの人が入るならば私も・・・」というのはよくある事実である。そのためには、退職校長会と現役世代との交流、あるいは教育支援を含めた学校現場との関わりが一つの着眼点になる。また、ボランティア活動を含めた社会貢献による生きがいの創出や活動の中で作られる人間関係も魅力の一つとなろう。さらに一般会員と役員との意識の差をどう埋めていくかなど、人間関係についての工夫の余地はあるように思う。高齢化が進む中でさらなる福利厚生の実施や、活動への参加が難しい会員への情報発信などの工夫も価値ある活動である。

退職校長会の活動は短いスパンでの目先が変わるものではない。状況に応じて様々な工夫を加えながら、地道は取り組みを積み上げ、会員にとっての「魅力ある会」にしていくことが大切である。そのような観点から、下記の共通課題について、各都県の現状や取り組みについて情報交換を行い、今後の各都県退職校長会の発展に寄与したく、上記の研究協議題を設定した。

３．共通課題

- ①教育現場や教育関係団体との交流や支援活動
- ②役員と一般会員との意識の差や会員の年代別意識の差を埋めていく工夫
- ③福利厚生事業、生きがいを持てる活動の工夫
- ④会員相互の交流を図る広報活動

埼玉県

埼玉県退職校長会は、10支部57班で構成、会員数：約3672名（令和5年6月現在）。役員：会長、副会長(8)、事務局長、監事(3)、支部長(10)。本部に・研究調査部・福利厚生部・広報部・庶務会計部を置き、本部の事業として・総会、支部長会、理事会、専門部会、幹事会、検討への要望活動、現職退職校長教育推進協議会、現職退職校長役員研究協議会、会員の慶弔（長寿祝賀、栄誉祝賀、物故者弔慰）を行っている。各支部、班では独自に研修旅行、懇親会、趣味（俳句、書道、文学散歩、絵画、囲碁、釣り、写真、ウォーキング、ゴルフ等）の活動を行っている。

1 教育現場や教育関係団体等との交流や支援活動

現職退職校長役員研究協議会（各支部、班） 同 役員研究協議会（全体）
学校の要望に応じて登録した指導者が訪問・指導

2 役員と一般会員との意識の差や会員の年代別意識の差を埋めていく工夫

これには、具体的な会員相互の交流を図る活動とそれを全会員に広める、広報活動の充実が重要である。

（1）会員相互の交流を図る具体的な活動として、研修旅行、懇親会、ゴルフ、俳句、書道、ウォーキング等の趣味の会を開催している。規模は県全体、支部、班それぞれで企画し参加を呼びかけている。最近では班や支部を超えて開催することも行われてきている。

（2）これらの活動を充実させるには、常に会員全体に速くて正確な情報を知らせて行かなくてはならない。そのために様々な工夫を重ねている。最近ではホームページの充実とその実態を述べてみたい。・情報を速く正確に得るために、各支部、各班に担当者を配置している。・県で作成しているホームページは常に更新を行っているため、最近では各支部、各班からの情報が頻繁に入ってくるようになった。

3 福利厚生事業、生きがいを持てる活動の工夫

会員の慶弔、囲碁・ゴルフ大会の実施、会員名簿の作成と管理

会員名簿の管理、改訂

（1）会員名簿について

退職校長会の信頼性をより高めるための基礎は、間違いのない会員名簿の作成と管理と運用が重要である。

① 現在、役員用と全会員用の2種類作っている。役員用には、・1個人番号・2姓名・3フリガナ姓・4フリガナ名・5生年月日・6該当年の4月2日現在の年齢・7〒番号・8住所・9電話番号の9種類の項目を入れている。全会員用の名簿には役員用名簿の項目から5，6，8，9のデータを除いている。

② 個人番号は初めに支部記号（A～Jの10種類）。次に県内に57ある班の記号（01～57）。次に班がさらに区分けされている班を示すために枝番を数字で1ケタ加え、最後にその区分けの中で最も年齢の高い者を001として順に割り振る。例としてあげると「A011001」といったま市（支部）浦和班（01）の中で最も高齢の方の個人番号となる。

③ 5年毎に会員名簿の全面改訂を行う。それは、毎年150名近くの新入会員があり、100名近くの物故者がいる。退会者等も含めると5年間で約1000名の会員の入れ替わりがあるためである。

④ このデータを表計算ソフトを使用して作成するため、フリガナから個人番号を割り出すことができたり、上寿等の慶祝名簿の作成、ゴルフ大会等の福利厚生事業の際の名簿の作成にも役立っている。また、令和6年度の会員名簿の改訂では索引を付けることにより一般会員同士の退職後の連絡をより取りやすくなることが期待される。

⑤ 会員名簿を印刷会社に頼ることなく、自作できるため、印刷も安価にできることになった。

⑥ データの管理については特に配慮しなければならない。

・コンピュータの管理、データの取扱方法を定め、個人情報の漏洩を防ぐ

・パスワード、メールでの送信、ウィルス感染防止等についても担当者同士での申し合わせを決める。

（2）会員名簿を管理していて見える最近の傾向

① 高齢化 この数年間本県の90歳以上の数が増加している。これまで上寿を迎える数は、0～1名程度だったが、本年度は4名が上寿を迎える予定である。現時点で来年度の上寿予定者数は6名、その次は13名、16名と増える傾向にある。国全体で見ると2021年の住民基本台帳によると、100歳を超えた数は、前年に比べ、6,060名増えて86,510名である。予測では2047年には539,000名を超えとのことである。現在では内閣総理大臣からお祝いとしてお祝い状と記念品として銀杯が贈られている。本県でも会則で記念品を贈って祝うことになっている。

② 支部、班によって増減の数が異なる この差の原因は何か。今後その原因を考え、会の運営方法の改善に役立てていきたい。